

2013 年度 立命館学校教育研究会 春季大会

2013 年 6 月 16 日(日)開催 立命館学校教育研究会 春季大会 講演会のご報告



2013 年 6 月 16 日 (日)、衣笠キャンパス 末川記念会館 講義室において、「2013 年度立命館学校教育研究会 春季大会 講演会」が開催されました。

立命館学校教育研究会では、毎年、子ども、学校、教育をめぐる諸テーマを取り上げ、その研究の最前線でご活躍されている研究者をお招きした講演会を企画しております。

本年度の春季大会では、「ソーシャル・スキル」を1つのキーワードとして、生徒指導の

新しいあり方を探るべく、片山紀子氏（国士舘大学文学部准教授）を講師にお招きし、「生徒指導と教師のソーシャル・スキル」をテーマにご講演いただきました。

米山裕会長（立命館大学教学部長）による開会挨拶の後、片山紀子先生から、国内外の生徒指導をめぐる最新事情をご紹介いただき、生徒指導において「教師のソーシャル・スキル」が必要とされる背景や具体的な実践方法について、大変ユニークなワークショップを交えながら、参加者が SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の実体験を通じて学べる場となりました。体罰禁止の歴史や体罰の両側面からみえる教師に必要なソーシャル・スキルについて説明され、そのひとつとしての「アンガー・マネジメント」について、自分の怒りのトリガーを知るために怒りを言語化するワークなども行われました。フロアから笑顔の溢れる和やかな雰囲気では進行し、最後に岡本真一副会長より片山先生や参加者に感謝の意が述べられ講演会は幕を閉じました。

会場には約 100 名の会員・学生・教職員が集まり、参加者は、「まず教師が笑顔でいること」の大切さを実感しながら講演に熱心に耳を傾けておられました。なお、片山先生には講演会後に開催された茶話会にもご参加いただき、多数の参加者と活発な意見交換がなされました。